



# SPLIT PIVOT™ SUSPENSION SETUP (スプリットピボットのサスペンションセットアップ)

サルサでは、冒険の意識が人生をよりよいものにするに確信しています。自転車は乗り物という枠を超えて、まだ見ぬ場所や会っていない人々、そして素晴らしい体験へと導いてくれる素晴らしいものです。

製品を購入いただいたことに感謝すると共に、あなたの乗車体験がより良いものになることを願っています。

バイクで冒険を〜サルサより

**▲警告：**サイクリングには危険が伴います。自転車製品は熟練のメカニックによって取り付け、保守点検してもらうべきです。自転車並びにアクセサリの改造は厳禁です。全ての製品の説明書並びに製造メーカーのウェブサイト上の警告を含む情報に目を通し従って下さい。乗る前には毎回点検を、ヘルメットは常に着用して下さい。

追加の製品並びに安全情報は[www.salsacycles.com/safety](http://www.salsacycles.com/safety)をご覧ください。

## はじめに

適切なサスペンションのセットアップはサルサのスプリットピボットサスペンションを最大限生かすため、そしてダンパーユニット、フレーム、あなた自身が傷つくのを防ぐために重要です。まず最初に、セットアップはトレイルに向かう前に自宅、もしくはショップで行わなければいけません。これにより基準となるダンパーのダイヤルセッティングと同時に、ショックとフォークの空気圧をセット、確認するのに十分な時間が取れます。最初にセットアップを済ませれば、以降の使用時は通常の試走点検に加えて簡単な空気圧の確認とダンパーセッティングの確認のみで済みます。

## 互換性

このセットアップガイドはスプリットピボットテクノロジーを採用した2014年モデルのスーパーフィッシュとホースシーフ用です。

## 必要な工具

ペダル付きのバイク

ショックポンプ

測定器具（物差し、巻き尺、ノギスなど）

乗車時の服装（水の入ったハイドレーションパック、ツールキット、その他普段携帯するもの）

固くて平坦な広めの場所

計測を手伝ってくれる友人もしくは頑丈な壁

## 説明書

### ステップ1：基準とするサグの決定

サルサのスプリットピボットモデルの推奨されるサグはリアショックのストロークの30%、フロントフォークトラベルの25%です。以下にmm表示で一覧をテーブル表記しています。お乗りのモデルのサグ値をステップ4のゴール欄に記入しておいて下さい。

モデル名	リアショック			フロントフォーク	
	ホイールトラベル	ショックストローク	30% サグ	ホイールトラベル	25% サグ
スーパーフィッシュ	80mm	38mm	11.4mm	100mm	25mm
ホースシーフ	120mm	44.5mm	13.3mm	130mm	32.5mm

### ステップ2：調整始めの空気圧

乗車時の自重を知っている必要はありません。ただ大まかな値がわかっているならば、最初から適正な空気圧に近い値を得る手助けとなります。そしてこのことは自転車の適切なサグ量を得る為の最終的な空気圧設定を絞るのに必要な憶測と確認の回数を減らす手助けとなります。調整始めとなるショックとフォークの大まかな空気圧は下の表を参照してください。そしてその値をステップ4の「プレス1」の欄に記入して下さい。

Model	リアショックの初期空気圧	フォークの初期空気圧
スーパーフィッシュ	体重(kg) ÷ 0.45 - 20 psi	リアショックの空気圧の50%
ホースシーフ	体重(kg) ÷ 0.45 + 10 psi	リアショックの空気圧33% + 5 psi

### ステップ3：自転車の準備

タイヤに十分空気を入れ、サドルを通常乗る高さに設定して下さい。次にリアショックとフォークのロースピードコンプレッションのレバー（もしくはダイヤル）を完全に開放します。一人でセットアップを行う場合は、固い壁のそばのしっかりした水平な場所に自転車を置くことで、乗った際壁に対して近い方の手もしくは肩をもたれることでバランスを取ることが出来ます。友人もしくは整備士の方で行う場合はあなたが自転車でバランスを取れるよう対面して両足で前輪を挟んでもらい、グリップとステムの間のハンドルを持って支えてもらって下さい。

\*フォックスフォークは右肩上の外周部の青いダイヤルが、ロックショックスは右肩頂上部のダイヤルがロースピードコンプレッション調整用です

### ステップ4：リアショックのサグの確認

自転車にまたがり、必要であればペダルのクリートをはめて、リアサスペンションを数回弾ませて、その後サドルに腰を下ろした通常の乗車ポジションにおさまして下さい。着座したままの状態、シャフト上のOリングをワイパーシールに逆らうよう押し付けて下さい。そしてリアサスペンションを沈ませること無く自転車から降り、測定器具を使ってシールとOリングの間隔を測り下に記入して下さい。

	サグ ゴール値	空気圧 1/ サグ 1	空気圧 2/ サグ 2	空気圧 3/ サグ 3	空気圧 4/ サグ 4
リアショック		/	/	/	/
フロント ショック		/	/	/	/



# SPLIT PIVOT™ SUSPENSION SETUP (スプリットピボットのサスペンションセットアップ)

## ステップ5：リアショックの空気圧の調節

計測したサグ量をゴールとなる値と比べて下さい。計測した値がゴール値より少ない場合、ショックの空気圧を下げてください。測定値が大きい場合、ショックの空気圧を上げて下さい。以降ステップ4と5の行程を繰り返して、計測値とゴール値が一緒になるようにしてください。最終的なリアショックの空気圧を書き留め確認、入れ直すことで毎回乗る前にこの行程を行う必要がなくなります。

## ステップ6：フロントフォークのサグの確認

リアショックの空気圧設定が終わったら、再度自転車にまたがり重心を真真中に置いたスタンディングポジションを取って下さい。フロントフォークを数回弾ませ、ニュートラルなスタンディングポジションに戻ってください。インナーチューブ上のリングをサスペンションを沈ませること無くワイパーシールに逆らうよう滑らせて下さい。それからフォークを沈ませることの無いように自転車の後方側に下りて下さい。メモ：この行程でシートは必要ないので、下げるもしくは取り除くことで降りやすくなります。

## ステップ7：フロントフォーク空気圧の調整

計測したサグ量をゴールとなる値と比べて下さい。リアショックと同様にフォークの空気圧を調整しながらステップ6と7の行程を繰り返して、計測値とゴール値が一緒になるようにしてください。最終的なフロントフォークの空気圧を書き留め確認、入れ直すことで毎回乗る前にこの行程を行う必要がなくなります。最後になりますがこの空気圧のセッティングはあなたが各種ライディングギアを装着した状態で行った測定であるということです。装着するギアや水の増減に応じて、フロント並びにリアショックの空気圧は調整する必要があります。

## フロントフォークとリアショックのリバウンドとコンプレッションセッティング

リバウンドとコンプレッションのセッティングは乗る人によって変わってきます。乗る人の重量、乗り方、能力レベル、走る地形全てがどのようなセッティングで走るかに関わってきます。体重の重い人はフロントフォーク、リアショック共により高い空気圧を必要とします。一般的に大きな人は小さな人に比べて高い内圧がかかることから、フロント並びにリアのダンパーユニットの戻る早さを等しくしようとすると、より大きなリバウンドのダンピングを必要とします。同様に体重の重い人もユニット上での大量のオイルの移動を打ち消すために、より多くのロースピードコンプレッションを必要とします。以下の表においてスタート時の推奨セッティングをモデル別に載せています。これらはあくまで推奨値であり、乗り方に合わせて異なるセッティングに変更することになるでしょう。

## スパーフイッシュ + Fox Float CTD - Factory, Performance, or Evolution Series Rear Shocks & Front Forks:

体重 (kg)	リアショック リバウンド	トレイルアジャスト ファクトリーモデルのみ	フォーク リバウンド
117+	-3	2	-7
99-117	-4	2	-8
81-99	-5	1	-9
63-81	-6	1	-10
45-63	-7	1	-11

## ホースシーフ + Fox Float CTD - Factory or Performance Series Rear Shocks & Front Forks:

体重 (kg)	リアショック リバウンド	トレイルアジャスト ファクトリーモデルのみ	フォーク リバウンド
117+	-3	2	-7
99-117	-4	2	-8
81-99	-5	1	-9
63-81	-6	1	-10
45-63	-7	1	-11

重要なメモ：リバウンドは常に最も遅いダイヤル設定からマイナス表示で計測されます。これはどのようなダンパーであってももっとも動作の遅いセッティングが開放されたセッティングより調和が取れるためです。

## FOXサスペンションのCTD機構とスプリットピボット

全てのホースシーフとスパーフイッシュにはFOXのCTD（クライム、トレイル、デシェンド）機構を備えたリアショックとフォークが搭載されています。スプリットピボットと一緒に使う際には、フレームの構造上アンチスクワット機構が組み込まれているため走行時の大半はDescend（デシェンド）のポジションを使うことをお勧めします。これにより効果的なペダリングを発揮しながら大半の状況で小さな凹凸に対して驚くべき追従性を発揮します。90kg以上ある攻撃的な走りをする人はTrail（トレイル）のポジションが適切と思われるでしょう。その他の大半の人にとって、トレイルのポジションは長い上りで必要とされる位かと思われれます。Climb（クライム）のポジションは通勤時や舗装路から走り始める際最も役立つことでしょう。

## SALSA CYCLES

6400 West 105th Street, Bloomington, MN 55438

Tel: 877-MOTO-ACE Fax: 952-983-6210

www.salsacycles.com

1057 01/14

追加の製品並びに安全情報はwww.salsacycles.com/safetyをご覧ください。